

第13回 経済学部

学生ディベート大会



2022年6月25日（土）

法政大学 経済学部棟 305 教室

主催 法政大学経済学部学会
運営 法政大学経済学部学生会
後援 法政大学経済学部同窓会

式次第

- 12 : 00 会場受付開始
- 12 : 30 開会式
- ・ 開会挨拶
法政大学経済学部長
廣川みどり
法政大学経済学部学生会代表
田中美雨
- 12 : 45 決勝戦開始
- ・ 審査方法、ルール説明
 - ・ 審査員紹介並びに選手紹介
- 13 : 00 前半戦開始
- 13 : 40 前半戦終了
- 休憩 (20分)
- 14 : 00 後半戦開始
- 14 : 40 後半戦終了
- 休憩・審査 (20分)
- 15 : 00 閉会式
- ・ 結果発表
 - ・ 表彰式
 - ・ 講評 (審査員)
法政大学経済学部教授
杉本龍勇
馬 欣欣
法政大学経済学部同窓会
幹事長 花澤良三
広報部会長 嶋 崇
 - ・ 同窓会挨拶
法政大学経済学部同窓会会長
村田紀敏
 - ・ 閉会挨拶
法政大学経済学部学生会代表
永井健太
- 15 : 30 閉会

・決勝戦 ディベート議題

日本は移民を受け入れるべき

・ディベートタイムスケジュール

肯定側立論	3分
否定側立論	3分
作戦タイム	5分
否定側反対尋問	7分
肯定側反対尋問	7分
作戦タイム	5分
否定側最終弁論	3分
肯定側最終弁論	3分

・ルール

- ・ チームメンバーは最初に登録したメンバーから変えてはならない。
- ・ 試合開始までに両者間合意の上で定義の統一をしておく。
(※定義を統一するのは、言葉自体の齟齬を無くすことで議論が発散しないようにする・公正な議論を行う為である。お互いが公正な議論が出来るような定義を設定する。)
- ・ 審査員に資料を配布することはできない。(学生会側で用語の解説資料を配付予定)
- ・ 作戦タイム以外はチーム内で相談してはならない。
- ・ チームメンバー全員が最低一度は発言する。
- ・ 質問をする際は、挙手をして司会者に指されてから発言する。
- ・ 発言をする際は審査員と相手チームに伝わるように大きな声ではっきりと話す。
- ・ 逆質問はしてはならない。しかし相手に対して復唱を要求することは可能。
(違反した際は、違反ごとに合計点から5点減点)
- ・ 相手の立論にない、新しい議題を出してはいけない。
- ・ 最終弁論の際に立論と反対尋問でなされた議論以外の関係のない議論を新しく持ち出して論じてはならない
- ・ 話している途中で持ち時間を過ぎた場合には強制で終了をする。
- ・ 偽りのデータを使用してはならない。

・ジャッジ基準

立論	1. 論理性 2. 言語明瞭性 3. 姿勢・態度	理路整然としているか 言葉がはっきりしているか 姿勢、視線、態度はどうか
否定 反対 尋問	4. 質問 5. 資料・データへの追及はどうか 6. 応答 7. 質問技術	論理の矛盾・問題点を指摘したか 論理的に回答したか(詭弁・ごまかし・論点のすりかえはなかったか) 質問の数、言葉の表現力、態度、積極性、やる気など
肯定 反対 尋問	8. 質問 9. 資料・データへの追及はどうか 10. 応答 11. 質問技術	論理の矛盾・問題点を指摘したか 論理的に回答したか(詭弁・ごまかし・論点のすりかえはなかったか) 質問の数、言葉の表現力、態度、積極性、やる気など
最終 弁論	12. 論理性 13. 効果的な反駁をしたか 14. 説得力があるか 15. 言語明瞭性 16. 姿勢・態度	理路整然としているか 言葉がはっきりしているか 姿勢、視線、態度はどうか
データ	17. 根拠のある資料・データか 18. 資料・データの量と質はどうか 19. 資料・データは分析できているか	

・対戦チーム

中谷ゼミβ VS 宮崎ゼミA

	肯定	否定
前半戦	中谷ゼミβ	宮崎ゼミA
後半戦	宮崎ゼミA	中谷ゼミβ

・選手紹介

中谷ゼミβ

藤城愛子、末村さやり、鈴木裕大、高橋玲音、岩本アンナ

宮崎ゼミA

西川圭太、高崎直樹、渡邊大樹、新田修平、根田遥

・審査員紹介

法政大学経済学部教授 杉本龍勇

法政大学経済学部教授 馬 欣欣

法政大学経済学部同窓会幹事長 花澤良三

法政大学経済学部同窓会広報部会長 嶋 崇

(敬称略)

・司会

法政大学経済学部学生会

田中美雨、永井健太

・法政大学経済学部同窓会

会長 村田紀敏

審査員（幹事長） 花澤良三

〃（広報部会長） 嶋 崇

会長代行 加藤毅

副会長 高橋将昭

〃 菅野里見

事務局長 高森正雄

常任幹事 大川成一

(敬称略)

・予選議題

第一回戦 論題

「高齢者の運転免許返納を義務化すべき」

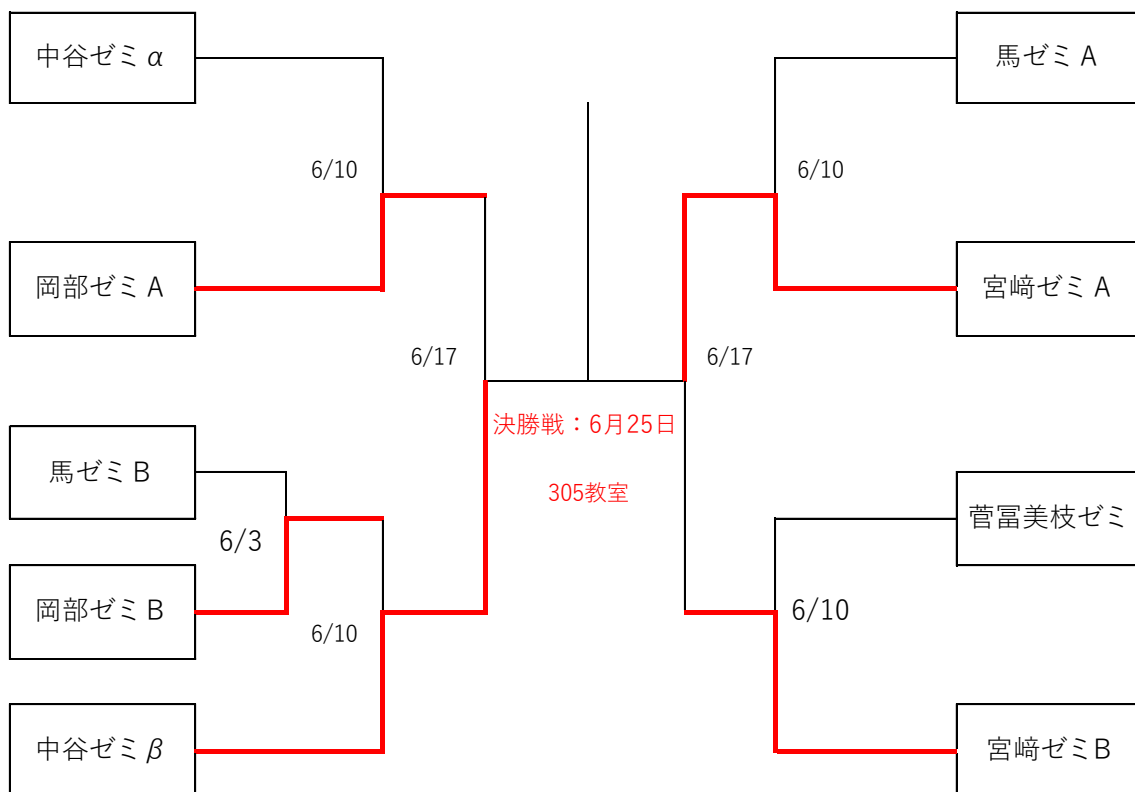
第二回戦 論題

「経済的理由による積極的な安楽死・自殺補助を認めるべき」

第三回戦 論題

「経済成長を犠牲にしてまで、CO₂の削減に取り組むべき」

・トーナメント表



・学生会代表からの挨拶

今年度、経済学部学生会代表を務めております経済学部国際経済学科3年の田中美雨と経済学部経済学科3年の永井健太と申します。本日はお忙しい中、第13回経済学部学生ディベート大会決勝にお越しいただき、誠にありがとうございます。また、大会開催にあたり、ご協力いただいた経済学部同窓会・教授会の方々をはじめ、大会参加者や審査員として参加して下さった学生の方々など、多くの関係の皆様を支えていただきました。今年度は無事にディベート大会を開催できたことを心よりお礼申し上げます。

このディベート大会は、能動的に学習すること・理論的な考え方・否定的思考力などを高めることを目的とし、ゼミナール別対抗で行われております。今年度は、5ゼミナール、9チーム、約45名が大会に参加し、予選から決勝まで4つの論題が設けられました。各試合、短い準備時間にもかかわらず、確固たる根拠となる豊富で正確なデータを基に白熱した議論が行われておりました。参加された学生の方々には、この経験を今後の経験や学生生活、社会人生活へ役立てていただければ幸いです。

さて、学生会は法政大学経済学部を盛り上げるべく、誠心誠意を尽くしておりますが、至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることもあったと存じます。今後のより良い運営のためにもご意見を頂戴できればと思っておりますので、何かお気づきの点がございましたらご指摘いただけますと幸いです。

最後になりますが、今大会が法政大学経済学部のさらなる発展につながる実り多いものになることを期待するとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、学生会からの挨拶といたします。

・法政大学経済学部学生会

代表 田中美雨、永井健太
メンバー 太田和輝、本間安也花、平野結人、山下亜紀、
大長根吏功、小林涼雅、筒見俊亮